

# 子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

## 論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Relationship between prenatal checkup status and low birth weight: A nationwide birth cohort—the Japan Environment and Children’s Study

和文タイトル:

妊婦健診受診状況と低出生体重児割合との関係: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 富山ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Annals of Epidemiology

年: 2023 DOI: 10.1016/j.annepidem.2023.04.008

筆頭著者名: 永岑 光恵

所属 UC 名: 富山ユニットセンター

目的:

低出生体重(LBW)には様々な要因が関与していると考えられるが、妊婦健診の受診回数が増えるごとに LBW 割合が減少することが沖縄県市町村パネルデータを用いた研究で示されている。本研究では、全国のデータを用いて、妊婦健診の受診状況と LBW 割合との関係および妊婦健診の受診状況に影響を与える要因を検討した。

方法:

エコチル調査に参加している 91,916 組の単胎出生母子ペアのデータを対象とした。妊婦健診の受診状況について、健診なしの回数と LBW 割合との関連をロジスティック回帰分析で検討した。また、妊婦健診の受診状況に関連する背景要因(年齢、BMI、収入、婚姻状況、出産への否定的な態度、就労状況、妊娠初期・中後期の SF-8(健康関連 QOL 質問表)など)も、多変量ロジスティック回帰により検討した。

結果:

ロジスティック回帰分析により、健診非受診回数 0 回を基準としたときの 1 回、2 回、3 回以上の非受診群の LBW 割合の修正オッズ比 (95%信頼区間)は、それぞれ 1.57(1.48–1.71)、2.40(1.97–2.94)、2.38(1.46–3.88)であり、これらには直線関係があることが明らかになった。また、非受診の主なりリスク因子としては、離婚や寡婦、次いで、妊娠に対する否定的な態度、独身であること、保護因子としては、就業していること、妊娠中期・後期の精神的健康が良好であることが挙げられた。

考察(研究の限界を含める):

本研究の結果から、妊婦健診を受けない回数は LBW 割合の増大と関連していることがわかった。妊婦健診の公費負担回数増加が妊婦健診の受診回数の増加に関連し、LBW 割合の減少に繋がることを示した沖縄県の研究から示唆されるように、日本全国においても公費負担の増加が LBW 割合減少への有用な対策となる可能性が考えられる。また、妊婦健診の受診に関連する要因には、妊婦を取り巻く環境としてソーシャルサポートの有無が重要であることが考えられる。本研究の限界としては、エコチル調査で対象とした妊婦健診の受診回数が最大 3 回までに限られていたことが挙げられる。そのため、実際の回数はこれよりも多かった可能性がある。

結論:

妊婦健診を受けないことは低出生体重児割合の増大に関連することが明らかとなった。妊婦健診の定期的な受診を促進する様々な対策を実施することの重要性が示唆され、具体的には妊婦健診の公費負担回数の増加およびソーシャルサポートの観点からの対策が考えられた。